

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202320		
法人名	(有)グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームやみね		
所在地	長崎県佐世保市矢峰町82-1		
自己評価作成日	令和4年12月24日	評価結果市町村受理日	令和5年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 5年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気をモットーに、集団生活の中でも利用者個人を尊重したケアを行ない、管理者、主任を中心に、利用者本位の生活が送れるように支援を心がけている。</p> <p>家庭的な雰囲気を念頭に、施設として内外部の清潔を保ち、感染症の予防に努めると共に、食材料にも、こだわりを持ち栄養、、見た目からも満足できるような食事の提供をしている。</p> <p>かかりつけ医だけでなく必要に応じた訪問診療を取り入れている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、陽当りの良い静かな住宅地の中にあり、窓から庭の樹木や花が見え眺めの良い環境である。母体の医療法人の連携体制と複数の看護師職員の勤務などは事業所の強みであり、健康管理や医療サポートが充実しており、毎年看取りの事例がある。利用者の健康長寿は、規則正しい生活と食事であると確信し、専任の調理職員が旬の食材で品数や彩りも良く提供しており、利用者との楽しみとなっている。介護計画では、利用者のできることは伸ばし、できないところをサポートするケアに努め、日常的に体操やリハビリを取り入れ、骨折術後に歩行が可能になった事例もある。職員の年齢層が幅広く、細かいシフトを組むことで、継続して働きやすい職場環境を整えている。利用者の思いを引き出す笑顔での支援は、安心した表情に現れており、穏やかに暮らせる事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前行っていた申し送りでの唱和が難しくなり、ミーティングでも意見があったため、現在、業務日誌の表紙に貼り付け見えやすいように工夫している	理念は「自分らしく生活できる。住み慣れた地域で安心して過ごせる。笑顔の絶えない毎日を送る。」との内容で、職員が笑顔で接することを第一に心掛けている。玄関から見えるリビングの壁や必ず手に取る日誌の表紙に理念を貼り、意識しながら日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦で難しくなっているが、回覧や清掃活動には参加している	町内会の一員として、回覧板を回し町内清掃に職員が参加している。コロナ禍で現在は児童との交流などは見合わせており、地域の情報は主に民生委員から得ている。近隣住民と挨拶を交わし、何かあれば協力して貰える隣人もあり、地域に浸透している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ渦で思うように取り組めていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、書面会議が多く、色々な意見を頂くことができていない。	年6回、規定の委員に向けて現在は書面会議である。コロナ感染症の状況を見て、一度対面で行っており、その時にヒヤリハットの取組みについて質疑応答があったことが、詳しい議事録から質問のへ返答が読み取れる。ただし、書面会議では委員からの意見や質問の返答が殆ど確認できない。	会議は、事業所のサービス向上に活かすための貴重な機会であるため、書面会議であっても、議事録での報告のみでなく、双方の情報が交換できるよう参加者からの意見や質問等を抽出する方法の工夫、検討に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いつでも相談できる様、環境を整えている。メールや電話も用いて、災害時などのやり取りや運営について尋ね連携をとっている。利用者の待機状況なども相談している	市への相談や質問、連絡は主にメールやFAX、郵送で行っている。市主催の研修はリモートで受講し内部研修で情報共有している。また包括支援センターとは連絡を取り合い、福祉事務所の職員の訪問もあり、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	6身体拘束の研修に参加し、その後ホームで職員とともに内部研修を行なっている。推進会議においても身体拘束防止委員会への報告を行ない、課題がある際は再度職員会議で議題としてあげ、早期に対応して、拘束がないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会は運営推進会議を活用し、検討、報告している。職員の研修は定期的を実施し理解を深めている。玄関の施錠は夜間のみで職員の言葉による制止には管理者が注意している。帰宅願望のある場合は見守りし、家族の依頼があっても拘束の弊害を説明し拘束をしない支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し、ホームでの内部研修も行うことで日頃の介護についての話し合いを行ない虐待防止つなげている。年に数回は内部研修を通じ、虐待防止に努めている。事業所内で虐待が見過ごされていないか、定期的にチェックリストを用いて自己評価するとともに、早期発見、早期対応に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者その人の必要性を理解して、活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書を読みながら口頭で説明するが、いつでも疑問や不安があった際は尋ねられる環境や関係をつくり、十分に納得できるよう対応をしている。入居時にはご家族へ十分な説明を行ない、安心していただけるよう努めている。退居時や契約変更時にも、必ず連絡を入れ書面とともに説明を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱を設置し、ご家族の意見を反映した介護に当たる努力をしている。また問題が発生した場合には職員会議で検討するとともに、お便りや推進会議でも報告している。	毎月の写真満載のホーム便りは、時々個別に状況を報告しており、コロナ禍で頻りに面会し難い現状の中、家族等の安心と楽しみに繋がっている。面会は玄関内のガラスドア越しに行っている。本人、家族の要望で自立歩行の継続をケアプランに取り入れ、リハビリに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の代表者も出席するミーティングを開催し、管理者は近況を全職員に伝えている。職員全員が持ち回りで司会と書記を担当し、一人一人が発言しやすい場を作っている。必要時には、代表者や管理者が個別に面談を行いホーム運営の発展に努めている	月2回の全体会議は、職員が担当を担う工夫で会議への意識を高めている。ケアについての提案やアイデアを引き出し、介護用品の購入に反映している。代表も会議に出席し必要時には、個別面談を行っている。また、働きやすい勤務シフトで、職員間のチームワークも良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の介護の力を高めるように、研修を受ける機会を提案し、働きながら学べる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の特性を生かし、研修の参加を促し介護のキャリアアップにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	疑問に思うことはメールや電話等で連絡を取り合って交流を図ったり、サービスの質の向上につなげている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族などの電話や問い合わせには落ち着いて積極的に応対し、安心感のある雰囲気作りに努めている。見学の際にはご本人の同席も願いご本人の気持ちを大切に相談を受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや要望を聞いたうえで本人に何ができるか、出来そうなのかを伝え今後の生活が本人、家族にとって前向きであるよう支援を進めていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がどんなサービスを必要としているのか面談時に話を聞き、類似のサービスの話も含め説明し、検討していただき、安心してサービスを受けていただける様努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を目上の者として敬愛し自立支援を目指して暮らしを共にする者として支えていくよう努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と定期的に連絡を取り、本人の状況を伝え、本人、家族の思いを大切にしながら今後のケアについて検討し決定していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	便りや電話等は職員が間に入り、情報共有ができるよう、通常は、居室にてゆっくりと過ごして頂ける工夫をしているが、今年もコロナ渦で面会はガラス越し、外出は必要最小限にしている。	職員は利用者の生活歴や習慣など把握しており、家族に携帯電話で買い物を依頼し届けてもらう人もいる。現在は感染予防対策のため馴染みの場所などへの外出は自粛しており、昔話をしたり、計算ドリルを楽しんだり、絵本、新聞、チラシを見たりと、馴染みのことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を個人として尊重し、利用者同士の交流を見守ったり、必要な時は職員が間に入り利用者同士の交流の場を設定している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後にも電話で安否を尋ねたり、家族の相談に応じたりなど、継続的なお付き合いを心かけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、新たな情報があれば追記し、本人の思いに添える様努めている。意思表示が難しい利用者には表情、家族、スタッフ全員で話し合い本人本位に検討している	利用者の状態や希望に合わせ、就寝、起床等をずらすなど本人本位の支援に努めている。会話から得た新たな情報は、そのままの言葉を記録し職員間で共有している。難聴の場合は、耳元で話し発語困難な場合は昔の習慣、仕草、表情から、また家族へ相談し、本人の思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や家族からの情報収集等から生活歴や生活環境をアセスメントし把握に努めている。昔の話を聞いたりして、その方に合った方法でサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、介護記録、他職種者の助言等をスタッフ全体で共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今現在の課題を本人や家族と話し合い介護計画を作成している。毎日のケアチェック表にてケアプランの実施状況を把握し、担当者会議で達成度を確認して、次のステップにつなげている	介護計画は、3ヶ月、6ヶ月で計画し、医師や作業療法士のアドバイスを取入れ、聞き取った本人・家族の意向に沿った目標を立てている。職員は、ケアチェック表を用いて、介護計画に沿った支援を実現している。毎月のカンファレンスやモニタリング・評価を行い、家族の同意を得て介護計画を更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は特記事項を設け一目で見ても理解できる工夫をしている。介護計画の見直しにも活用できるようにケアチェック表などとも連動させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望に合わせた受診介助、買い物支援や、OTリハビリにも取り組んでいる。訪問による理美容、口腔ケア等を取り入れ、一人一人を支えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが地域で安心して暮らしていけるよう家族や民生委員の方への定期的な状況報告を行なっている。現在は、地区清掃、回覧板、に参加し繋がりが途絶えない様心がけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の意向に沿っている。それぞれのかかりつけ医と情報を共有し適切な医療を受けられる様支援している。	本人の意向や症状に応じて、適切な医療機関の受診を行っている。耳鼻科などかかりつけ医へ受診したい場合は、家族の協力のもと対応している。事業所に対応した受診結果は、通院ノートに記録し、家族へ報告を行っている。夜間など急変時の連携体制を整備しており、職員も対応を把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、医療連携の看護師が来訪し、連携をとり支援に当たっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は病院関係者や家族より情報を得て、共有できるようにしている。退院の際は家族と話し合い、ホーム内でカンファレンスを早期に行い安心してホームに戻れるように環境づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居開始時に終末期の看取りについて本人と家族の意向を聞き、事前に確認書を作成しているが重度化した場合は改めて、家族、主治医、管理者、看護師、介護スタッフ等と話し合い説明しながら支援に取り組んでいる。	事業所は、重度化における看取りの他に終末期における指針を作成している。事業所が行うべき対応をわかりやすく記しており、事前の確認書も作成している。状況に応じて、医師と家族、事業所の職員等との話し合い、利用者の気持ちに沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、職員は研修等に参加し、内部研修を行い対応できるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防災訓練は年1回、マニュアルに沿って行っている。地域のハザードマップの確認をしている。災害に備えた物品の備蓄、非常持ち出し品の職員への周知もできている	年2回避難訓練を行っている。コロナ禍のため訓練時に業者による機器点検と、訓練のアドバイスを得ている。自然災害は、大雨と地震を想定し、年1回訓練を行っている。大雨での避難経験があり、職員の意見から移動方法を検討している。具体性のあるシミュレーションの訓練はこれからである。	訓練に参加した職員の意見や外部のアドバイスが次回訓練に活かせるよう、報告書へ反映することが望まれる。また、避難経路や場所、地滑りなど、より具体的な想定訓練の実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を重んじ言葉かけを考え、プライバシーを損ねない対応をするように心がけている。	職員は、利用者の尊厳を重んじた支援について、日々取り組んでいる。利用者の羞恥心に配慮した声の掛け方、支援の方法を検討し実施している。事業所は個人情報保護に取り組んでおり、家族から写真使用等の同意書を得ている。個人情報に関する書類は事務所で管理し、職員の守秘義務は周知徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いをよく聞いて希望に添えるよう働きかけを行ない、意思表示が難しい人には、表情や反応でくみ取り利用者さんが気兼ねなく自分の気持ちを表現できるような雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にとって無理をすることはせずに、利用者が自分のペースで今したい事を優先してできるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の来訪にて、その人に合ったヘアスタイルの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「美味しかった」の言葉が聞けることが多い。職員と一緒に今できる能力での準備や片付けのお手伝いをお願いしている。	旬の食材や嗜好を反映した献立を作成し、調理担当職員が調理している。嚥下に合わせた盛り付けを行い、自身のペースで食事ができるよう工夫している。ダイニングでは、利用者が食材の下準備や片付けの手伝いを行う等、家庭的な雰囲気がある。季節行事や誕生日など特別な献立もあり、食事が楽しみなものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者にあった量の提供。体調に合わせ、全量摂取できる様に、医師や看護師、歯科医と連携を取りながら食べやすい形態を提供している。水分量もいろいろな工夫を職員で考え、実施している。声かけを、適度に行うことで食事を楽しく摂れるような環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアできる方には毎食後の口腔ケアの声かけを行ない、自分で難しい方は、付き添いできるところまでをお願いして、その後に支援をしている。自力でできない利用者さんには、口腔内を清潔にしたり、歯間ブラシやその人にあつた道具をつかい清潔保持に努めている。定期的な歯科医による口腔ケアも受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導で声掛けを行ない、出来るだけ失敗をしないよう自立に向けた支援を行なっている	職員は、日中はトイレで座位排泄に取り組んでいる。支援状況は排泄チェック表へ記録し、支援の検討に活用している。利用者の排泄習慣を考慮しながら、声掛けや誘導を行っている。職員は、利用者が自らトイレに行く意欲を見守り、できない部分を支援している。利用者の皮膚がかぶれることなく、心地よく過ごせるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取った料理を提供し、水分チェックを行ない、毎日の体操を心がけ、自然排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	入居者の希望に応じてあせがらず、ゆっくりと入浴できる様に支援をしている。	週2回を目安に、入浴介助を行っている。1階と2階の入浴日をずらしており、体調不良や入浴拒否などで入浴ができなかったときは、ユニットを変えて入浴できるよう支援している。好みのシャンプーを使うこともできる。やみね温泉と称して声を掛けたり、入浴中は職員との会話を楽しむなど、入浴が利用者のリラックスタイムになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操などで体を動かし、夜間は、テレビの音を小さくしたり、照明を落としたりして環境を整えている。不眠時は、状態を観察し気ままに過ごせるように見守りや声掛けをし安心してもらえるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の薬剤情報をまとめて見やすい場所に設置し内容を全職員が把握できるようにしている。服薬は2重、3重のチェックを行ない誤薬がないように気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに出来る事を行なってもらっている。 コーヒーが好きな人には、おやつ時や希望時に差し上げている。ふりかけや梅干を好まれる方への購入から提供まで支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年もコロナ禍で外出の支援が出来なかった。	コロナ禍以前は、季節の花見など外出の機会を多く設けていたものの、コロナ禍は感染予防のため、以前のような外出は控えている。現在は、各階ベランダやデッキを活用した外気浴を行い、少しでも外の空気を感じてもらえるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方は、お小遣い程度もっておられる。無理な方はホーム事務所で管理している。必要なものは購入できるように希望を聞き支払いは本人にもしてもらおうようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に携帯電話を持っている人もおり、自由に使えるようにしている。事務所でも本人希望時、即対応できるようにしている。手紙は届いたら本人にすぐ渡せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はバリアフリーで手すりは動きやすい位置に取り付けている。TVやCDの音量を調節したり、カーテンは2重にし光の刺激を和らげている。においや空気のもどみがないように換気にも気を配っている。季節の花を飾ったり、季節に応じた貼り絵をし居心地よく過ごせるように工夫し、家庭的な雰囲気作りを大事にしている。	リビングや廊下はゆったりとした広さがあり、利用者が各々自由に過ごすことができるよう環境を整備している。洗面台やトイレはバリアフリーである。壁面などには、季節感のある飾りつけや言葉、利用者の書初めなどの作品を掲示している。毎日、職員が清掃と換気、感染対策を行っており、快適な共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイス、テーブルをホールや廊下に置き、一人でも、また気の合う者同士でも、思い思いに自由に過ごして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に、使い慣れた物や好みのものを自由に持参してもらい、居心地よく過ごして頂けるように個別性のあるお部屋づくりを心掛けている。	居室は畳敷きとフローリング仕様の2種類があり、備え付けの電動ベッドと整理タンスがある。自宅の環境に近づけるため、家族の協力を得て、仏壇やテレビ、ラジオ、縫いぐるみ、見やすい時計や衣類ハンガーなどを持ち込んでいる。写真や色紙を飾り、職員が換気や掃除、室温管理など行い、清潔で寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、それぞれの目線に合った位置に表札をかかげ、共有スペースは、広々とした空間を作り、時計やカレンダーは見やすい位置に設置している。トイレや浴室も矢印をつけ、自由に安全に生活が送れるように工夫している。		